

第1回市民会館の整備検討懇談会 議事録

日時：令和元年8月6日（火）午後2時～午後4時
会場：名古屋市公館レセプションホール

1 進行

- (1) 廣澤副市長挨拶
- (2) 委員紹介、事務局紹介
- (3) 座長選出及び座長挨拶
- (4) 懇談会開催要綱及び傍聴要項の説明
- (5) 資料説明
- (6) 質疑応答及び意見交換
- (7) 閉会

2 質疑応答及び意見交換

黒田座長

ご説明ありがとうございます。本日は第1回目ですので事務局の説明にあったとおり現状の問題点も踏まえ、この地域の色々な施設の役割分担のあり方等多岐にわたった説明してもらいました。

まずは、各委員から簡単な自己紹介、現在のお考えや、事務局から説明のあった点について自由にご意見を頂戴したいと思います。その後で時間の許す範囲内でディスカッションを進めて参りたいと思います。それでは恐縮でございますが、遠藤委員から、簡単に自己紹介と、ご意見をお願いします。

遠藤委員

サンデーフォークプロモーションの遠藤と申します。弊社はポップスやミュージカルを中心に色々な施設で事業を実施しております。今の説明を聞きまして、すごく良くできた資料だなと感心しておりました。まさに、この色々な状況がそのまま今の市民会館の状況なのだなと。数字で出ているので分かり易いですし、特に我々が直面している部分ですと利用率が99%という点です。これはかつてない恐ろしい利用率だと感じております。大ホールでも中ホールでも、我々興行主をはじめとする民間利用者が約7割以上を使わせていただいているということと、厚生年金会館、勤労会館が閉館して以来、自分たちが望むキャパシティーに合った会場での利用よりも、「会場をとること」を優先している団体もいることがわかりました。弊社も同様ですが、まずは会場を確保できないと公演を開催できないので、中にはキャパシティーに合わないコンサートもあるものですから、そういったことが少なくなる方が良いかと思っております。

黒田座長

何かお気づきの点があれば、後で再度ご発言いただけたらと思います。ありがとうございました。それでは工藤委員お願いいたします。

工藤委員

名古屋演劇鑑賞会の事務局長の工藤と申します。うちの団体は65年前に創られ、定期的に会員制による演劇の観劇会を開催しております。現在、名古屋市民会館の中ホールを中心に使わせていただいています。先ほど遠藤委員も発言されたように、市民会館自体が9割の利用率という状況の中で起こっていることといえば、(中ホールの利用実績の中で)ここ数年間、演劇利用が増えたことになってはいますが、厚生年金や勤労会館が閉館してから、演劇については東京を始め各地から公演を開催しようとしても名古屋では会場が確保できないため、最近では、刈谷市や東海市で開催することが多くなってきています。

また、豊橋市には(穂の国とよはし芸術劇場)プラットという新国立劇場や世田谷パブリックシアターを模してつくられたホールがあります。演劇の公演が豊橋で開催できる状況にあるなか名古屋の演劇ファンの方々は「名古屋ではあまり会場がない」「芝居が観られない」ということで、週末には豊橋まで行く、あるいは刈谷に行く、もしくは可児市(文化創造センター)まで行くということが起こっています。このような状況が続いており、他地域と相対的に見ますと名古屋で演劇を見る観客は非常に減ってきています。

遠方の劇場まで行ける人というのは熱心な観客であって、名古屋で気軽に観たい方々は大勢みえるのに、名古屋に会場がなくて演劇公演が開催できないことから、名古屋では潜在的な演劇需要といたしますか様々な観客を掘り起こせない状況になってきているのではないかという危機意識を持っています。

今回、市民会館の再整備が議題になるということで、既存の大ホールと中ホールは当然確保されるものと思っているのですが、新しい市民会館にホールが二つだけできたとしても利用状況が引き続き厳しいことは明白です。新しく整備するには予算や様々な問題があってどんなことになるか分からないにしても、例えば小ホールよりも少し大きなホールを新たに含めて考えるべきではないでしょうか。市民会館は貸館ホールということで、我々も貸館というものは必要だと当然思っていますが、同時に「劇場法」に基づいた新たな劇場を併設することによって、貸館でありながら劇場法に基づいた劇場を併設して総合的な文化施設にすることによって街がさらに発展するのではないかと私は思っております。

ともかく今は、名古屋のホール不足が非常に深刻な状態であり、名古屋における文化芸術、観客のためにも、新たなホールの必要性を感じているところです。

黒田座長

ありがとうございます。では続きまして高北委員お願いいたします。

高北委員

愛知芸術文化協会理事長を務めております、高北でございます。愛知芸術文化協会という肩書で今回の委員をお受けさせていただいておりますが、愛知芸術文化協会自体は約300人の集まりで、市民会館の利用者や舞台・ステージ関係、それから伝統芸能、邦楽、現代のコンテンポラリーまで様々な団体が利用しているわけです。他にも美術や文学、舞台技術の人たち、いわゆる裏方と言われている方々、それから鑑賞団体のメンバーも入っております、そういった意見を集約してこの場で意見を述べるという形でしかできないかなと考えております。

私個人は、デザインとアート、そしてかなりの多くの時間を指定管理やまちづくりを専門に

研究してきましたので、その観点も重要視していきたい。この懇談会では当然ながら演じる側、それから鑑賞する側にとって市民会館をどのようなものにしたら良いのかという二つの大きな意見に加え、市民会館には行かない、又は今まで行ったことがないし、これからも行かない、しかし、名古屋市民あるいは周辺の市民、こういった人たちにとって市民会館はどういった意味を持っているのかという視点も大事であろうと。これまでの市民会館はきちんと誇りになれる会館であったであろうかという視点です。その中身は、鑑賞側としては行かないあるいは演じる側としては行かないけれども、例えば街で「名古屋市民会館はどこにありますか」、「ああ、金山ですよ、そこですよ」という自信をもって、誇りをもって名古屋市民会館を語れるのか、紹介できるか、そういったことが先ほど工藤委員からもありましたけど、金山の市民会館であったり、市民会館がある金山であったりという大きな視点で、街のなかにドスンとした位置づけというものが需要だと思います。この点、文化都市と言われている他都市や世界に目を向ければ参考になる都市はたくさんある訳です。

今、名古屋市民会館はどこにありますかと言って答えられない人は大勢いると思います。特にネーミングライツ導入以降は、名古屋市民会館という名前が出なくなったものですから、そういった点も含めて、やはり市民が誇りをもって名古屋市民会館を語れる、そういう場所に再生できればと切に願っています。

黒田座長

ありがとうございました。順番ですと月東委員ですが、今回はよろしいですか。

月東委員

はい。

黒田座長

それでは永井委員お願いします。

永井委員

こんにちは、永井でございます。浜松の静岡文化芸術大学で教員として勤務しております。皆さん名古屋の方、愛知県からだと思っておりますので、うまくディスカッションの中に入れたら良いかなと思っております。ご縁が全くない訳ではなく、私は名古屋の大学にいましたし、愛知県知立市文化会館で2000年にオープンした時から10年ほど勤務しておりました。そこで、いわゆる芸術監督をされている方の下でプロデューサーを10年ほどやっておりました。そこから退職しまして2008年に静岡文化芸術大学の教員になり今11年目になります。

先ほどの話にもありましたが、劇場に誇りをもってというのがとても良いなと思ひまして、私もそうなるために10年間、劇場の発展開発に従事してまいりました。その当時に思ったのは、私も岡山から愛知に来て、名古屋にも親戚がおりますが、よそ者の良さというものがありまして、地元の方たちが気づかないことや違った角度から劇場を位置づけることができるかなということで手伝ってまいりました。

知立市文化会館が2000年にオープンして2年後に文化庁芸術拠点形成事業という会館自体に助成金をつけるという支援に応募して、助成が認められて現在に至るわけですが、その時に、

県や市の行政規模というよりは、いかにその事業レベルですとか価値観ですとか色々な方々の多様性を融合していける専門家の必要性を感じました。芸術拠点の形成に向けた取組みを続けていけば、必ず専門家以外の市民の方々も共感して近寄ってきてくれ、新しい文化が生まれてくることを実感してきました。

名古屋の方々にとって、名古屋市民会館のこれからを考えていくときに、刈谷や東海、知立、知多など、他の地域も含めて、バランスもよく考えて、名古屋市ならではの位置づけを探していけるようなディスカッションができればいいかなと思っております。よろしく申し上げます。

黒田座長

ありがとうございました。では続きまして西川委員申し上げます。

西川委員

日本舞踊をやっております、西川と申します。高北先生が理事長でいらっしゃいます、愛知芸術文化協会でも理事をさせていただいております。ANET という団体が特徴的なのは、様々なジャンルの芸術家が一緒に活動しているという団体ということで、これは全国的に見ても類を見ない。俳優協会や、音楽家の協会があっても、それらが全て交流するような団体っていうのは全国的にも珍しいです。愛知県は、人口も多いのですが、文化人口がすごく多いということをここで強調したいと思います。

例えば園芸などは日本一の規模をもっており、造園をはじめ植物、お料理、ありとあらゆる文化、武家社会、お茶も盛んですし、芸術、モダンアートでも、大変盛んな土地でございます。ユーザー側や住んでいる人たちにも、とても文化的な人が多く、実際はとても文化的な経済価値も多い地域です。私自身、日本舞踊の仕事をしておりますけれども、名古屋国際学園というアメリカンスクール出身で、ニューヨークのスクールオブビジュアルアーツという現代美術を勉強してきました。グローバリズムも大変納得できますし、グローバルに世界が繋がればいいというふうに感じます。同時に一方では、個性がどんどん無くなってきて、ネットで繋がっているから世界に行かなくてもいいじゃないかと言われてますが、やはり今の資料を見ましたら、一番お金を使うのは旅行とか、どこかに行きたいというところにお金を使うわけです。

名古屋では歴史観光に力を入れていますし、観光客にぜひ来てほしいという考えがあります。歴史的背景から、名古屋ではおもてなし武将隊というものが生まれましたが、これを考えたのは北海道の人です。北海道の人が名古屋に来た時、なんで歴史文化があるのに名古屋人は興味を持たないのかと思いついたのがきっかけで、歴史観光として今も続いております。

市民会館については、ありとあらゆるジャンルの人たちが使いたいと思えることと、市民利用という部分をしっかり考えていきたいということと、私の仕事柄からいけば、日本の劇場スタイルは絶対どこかで残してほしい。全てのジャンルを一つの劇場で対応させましょうというのはほぼ不可能だと思います。名古屋市民会館の良いところは中ホールと大ホール、2つに分かれていることです。中ホールと大ホールで西洋と東洋の住み分けということも可能なのではないかと思います。

実例として、金沢市には（石川県立）音楽堂という施設があり、完全な和風の建物とコンサートホールが両隣に駅前に建っています。とてもモニュメンタルな場所でありまして、駅前には鼓門があります。金沢は都市に対するプライドが強く、なおかつアピールもよくされている

都市だと思います。金沢であったり、福岡であったり、そういった都市が元気に見えるのはやはり自分の都市に対するプライドというものを高く持っているからじゃないかと思います。

私も全国にお弟子さんがみえるので、訪れますと本当に自分のまちが大好きだと屈託なく言える、そういう街がうらやましく思います。

名古屋もぜひ、モニュメンタルな場所を創るという意識をもってもらいたいと思います。モニュメンタルな場所という点では、名古屋には名古屋城があり、熱田神宮、テレビ塔などもそうです。今はテレビ塔も閉じており周辺の公園も整備中です。

金山も、無表情な都市として設備が整っているだけではなく、もっと遠くの人から、あそこに行くのはこの劇場があるから、と言われるまちにしていきたい。西川流は、唯一台湾に外国の支部があり台中市に本拠地があります。台中市はよく名古屋と比較されるまちですが、そこには日本人の建築家(伊東豊雄氏)が設計した、日本では作れないような劇場をあります。ぜひ世界的の見本になれるような、名古屋ならではの劇場をつくっていただきたいなと思います。以上です。

黒田座長

ありがとうございます。それでは続きまして林委員お願いいたします。

林委員

自己紹介ということですので、学生時代はクラシック音楽を勉強しておりました。これまで愛知県で3つの劇場で仕事をしております。1つ目は扶桑町の扶桑文化会館、2つ目は春日井市の春日井市民会館、そして3つ目が愛知県の愛知芸術劇場と、町と市と県と3つの異なる自治体で仕事をさせてもらっております。

それに加えて、永井委員と同様に名古屋芸術大学でアートマネジメントを教えています。名古屋市民会館は大ホールでコンサートツアーのスタッフとして2回ほど利用させていただきました。資料についての意見として、3つほどどうかなと思うことがありまして、1つ目は工藤委員から劇場法という話が出てきましたが、例えば文化芸術基本法とか劇場法とか市の総合計画とか、名古屋市では文化振興計画2020も作られていますので、そういった上位計画との整合性や位置付けがどうなっているのかなと。少しは触れられているのですが少し気になりました。

全体的にすごく丁寧にお調べいただいて、遠藤委員同様すごく納得したんですが、基本、顕在的な需要を中心に書かれていて、潜在的なニーズについてはあまり書かれていないので、それはきっと上位計画等も絡んでくると思いますけど、あるべき論などの中で今まではなかったけれど、こういう機能はどうだろうというのが今後の話の中で出てくるのかなと思いました。

今はハードがどうしても先行して議論にならざるをえないと思うんですけど、劇場法の中でもハード・ソフト・ヒューマン3つ合わせて劇場の機関だと定められていると思いますので、そういう議論と、ハード・ソフト・ヒューマン、プラス制度ですね、この4つを合わせて議論ができるといいのかなと思いました。以上です。

黒田座長

ありがとうございます。それでは松岡委員よろしく申し上げます。

松岡委員

おはようございます。大変遅くなり申し訳ありません。クラシックバレエの松岡璃映と申します。皆様のご意見のとおりですが、現場で劇場を使う立場として、今、非常に劇場の確保が難しい時代になっております。やはり市民会館としては3館、大・中・小の3館作っていただきたいという希望があります。それと、どうしても名前が変わってしまうと、みんなが「何だっけ、この劇場？」ということになるので、できれば「名古屋市民会館」という名前を残してもらいたいというのが意見です。いまだに私たちは「市民会館」「大ホール」「中ホール」と言っています。「フォレスト」とか「ビレッジ」というのはあまり使っていないのですが、やはり「愛知県芸術劇場」があるのと同じように「名古屋市民会館」があるのが大切なんじゃないかなと思います。

そして、やはり学生に良いものを見せることによって文化人口が増えていく、昔、市が主催してバレエの公演をし、それを学生たちに見せてあげる、一度良いものを見てくれると、また次に足を運ぼうとなる。それで文化人口が増えていったのですが、今この状況を見ると、どんどん文化人口が減ってしまうので、そこは市に頑張っていただきたいというのが現場の希望です。ぜひみんなで良い劇場を作っていけたらいいなと思っております。以上です。

黒田座長

ありがとうございます。それでは山本委員お願いいたします。

山本委員

吉本興業、よしもとクリエイティブ・エージェンシーの山本でございます。私共としても、市民会館をよく利用させてもらっておりまして、大ホールは吉本新喜劇を中心とした寄席興行で1日2回、合計4,000人くらいのお客さんに来てもらっています。中ホールは人気どころの芸人たちが最終的に単独ライブを開く目的の場所になっている感じです。漫才師2人で1,100席のキャパを埋めるのは、なかなか難しいことですが、それをやるのが大きな夢であって、中ホールをいっぱいにできたらすごいなということで過去何組もいっぱいにしております。例えば、近年では「トータルテンボス」というコンビが半年かけてじわりじわりと完売したり、兄弟コンビの「ミキ」というのがすぐに完売しています。そういった意味では、大ホール・中ホールというのはすごく良い座席数の劇場だと思っております。

私共は、東京や大阪で劇場を持ってまして、先日、(事務局の方も)視察に来ていただいた「なんばグランド花月」は846席の座席でございます。当劇場は「奇跡の劇場」と言われていて、観客も見やすく、舞台に立つ出演者もセンターマイクの前に立つと笑いがすごく集中して反応が分かるので、すごく良い劇場だと自負しています。ただ、この環境はたまたま偶然でただけで設計した人間がそこまで考えていたかは分からないので、同じものをもう1つ作ってくれと言われても、その才能も資料も残っておりませんので、そこは少しご勘弁いただければと思います。

名古屋では、なかなか劇場が取れないというのはあるのですが、ぜひとも芸人が市民会館でやろうと思えるような感じのものを作っていきたいと思いますので、私で色々協力できることがあればやっていきたいと思いますので、よろしく申し上げます。以上です。

黒田座長

ありがとうございます。それでは名古屋フィルハーモニー交響楽団の山元委員お願いします。

山元委員

名古屋フィルハーモニー交響楽団の山元でございます。私がオーケストラに入りましてもう30年以上が経過しました。昭和の最後の年から名古屋フィルハーモニーでお世話になっております。平成の30年間、名古屋ではデザイン博で国際会議場ができ、愛知県芸術劇場ができ、先ほどの資料にもありましたが、ホールのキャパシティーというのは非常に大きくなってきましたが、それとは逆に厚生年金会館、勤労会館といった閉鎖するホールが増えてきて名古屋フィルハーモニー交響楽団の事情を申し上げると、昨年度は先ほどもずっとお話がありました通り、ホールを取ることが難しく、公演数は2016年の楽団創立50周年のときには頑張って133公演、これは名古屋市内だけではないのですが年間通して133の公演を実施できていたのが、昨年度ホールがなかなか取れず、そこから30公演くらい減るといような状況でした。

活動回数の減少により、経営側の経済的事情も、非常に悪化してしまったという事情があります。そういう中で市民会館の建て替えということは、またホールが一時的に少なくなるという事情も孕んできていると思いますので、慎重に議論していく必要があるのかなと思います。

とにかく日本中にどんどん素晴らしいホールができてきておりますので、どうせ作るのであれば、派手好きな名古屋としては全国に誇れる素晴らしい劇場を造っていただきたいというふうにも思いますし、特にオーケストラが関わるコンサートホールで言うと、ここ30年の間に例えば、東京墨田区の錦糸町、錦糸町と言えば昔はなかなか近寄りがたかったのですが、そこが「新日本フィルハーモニー」というオーケストラが入り、「トリフォニーホール」というものができました。川崎にも「ミュージア川崎」という劇場ができて、駅前が一般の市民の皆さまが集う場所になってきている。そう考えると金山も、昭和の時代は何となく金山という街もあまり印象が良くなかったと思いますが、これを機会に金山の新しい街づくりというものを含めて劇場ができればいいじゃないかなと思いますし、先ほど西川委員がおっしゃっていた金沢のホールも「オーケストラ・アンサンブル金沢」というオーケストラが入っているホールですし、コンサートホールともう一つの劇場と立派に運営されている。

私共、名古屋フィルハーモニー交響楽団も新しいホールの中に入って、オーケストラが住んでいる劇場というのをぜひ目指していただきたいと思っていますし、私も30年間色々と全国のホールを見て回って利用させていただいていますので、そこで得たものをこういう場でお話しさせていただければ、参考にさせていただければいいのかなというふうに思います。以上です。

黒田座長

ありがとうございました。とりあえず事務局の方から簡単にお答えいただけることがあれば。

事務局

先ほどの西川委員からありました台中ホールですが、伊東豊雄氏が設計した台中国家歌劇院という素晴らしい独創的なホールがございます。また、先ほど林委員から発言のありました、今回の資料作りについてですが、我々は需要の調査において利用者の皆様からたくさんのご意見をヒアリングする中で、やはり劇場が足りないという話を多くお聞きしており、どれだけの

潜在的な需要があるのかを何とか定量化できないか試みたのですが、中々そういうものを示し難かったというところで、資料からは分かりにくい面もあったかと思います。様々な視点や角度から資料を用いて説明していく中で「劇場が足りない」というイメージを皆さまで共有していただけないかということで今回このような形の資料にさせていただきました。

ただ、今後も我々としましては劇場不足というものがどのようなもので、皆さまにとってもどれだけの規模のホールが必要なのかということは、改めて色んな形で意見を吸い上げましてこの懇談会の中で出させていたいただきたいと思っております。

また、今回ハードが先行しているのは確かにございます。老朽化という課題もあるのですが、一方で施設をどんな使い方をするのかということがやはり大事であろうと。先ほどみなさんのお話をお聞しておりますと、和ものとか洋ものとかいろんな形がございまして、それぞれ利用の仕方とか求めるものが異なってまいりますので、皆さんからご意見をいただきながら少しずつモヤっとしたイメージを形にしていく作業を重ねながら形にしてまいりたいと思っております。その中で当然ながらソフトというものも非常に大事であると思っております。現状では施設予約の抽選が平等に行われているため、大会・式典・講演会など実演芸術以外のご利用がかなり入ってきております。そういう利用実態をどうしていくかということも今後会議の中でご意見をいただきながらまとめていくものかなと思っております。同時に、やはり制度というものもこうあるべきだ、実演芸術というものを大事にしていくというものはこういうべきなのではないかというようなまとめも今後してまいりたいと思っております。以上でございます。

黒田座長

他には何か。

月東委員

4月に部長に着任してからミューザ川崎とか先ほど山本委員からご紹介いただいた「なんば花月」を見させて頂いたり、東海市・刈谷市のホールも見させて頂きましてやはり思ったのは、その時代、新しい時代という形で工夫をこらしながら、まちにとって誇れるものにしたいという思いがそれぞれの都市で感じられたというところと、やはり行政の立場からいくと、こうしたいという思いがいっぱい詰まっていたのですが、現実の工事を進めていく中で、じゃあどこをカットしていくかというところで妥協点を見出さなければならない部分があったり物理上の敷地の形状なり大きさなりにはめていかなければいけないというところでどういう動線にしていこうとか、今後ハードの議論が進むと出てこざるを得ないのかなと。あとソフトというところでいくと、どう使っていただくかという部分では利用者の観点と演者の観点と委員の方からもお声がありました潜在的な需要をどう掘り起こすかというところも今後検討すべきというところを感じた次第でございます。

黒田座長

私はネーミングライツを最初に導入した時の選定委員の一人でございます。色々ご批判を受けると、当初は思ってもみなかった副作用が色々生じているなど。当時は自治体の財政が非常に厳しくなっていた折ですので、出来るだけ民間から資金をいただけるならというやり方でした。やはり、アイデンティティが若干失われたのかなという可能性はありますね。これから

ハードの方も議論が徐々に動いていくとは思いますが、今日は竹田都市整備部長にわざわざお越しいただいているので、ハードのことで金山の今後のあり方などのプランがもしございましたら、話せる範囲で結構ですのでお願いします。

竹田都市整備部長

都市整備部長の竹田でございます。私は本日の名簿の方には検討委員ではなく、オブザーバーということでお声かけいただきました。黒田座長からもお話がありましたように、住宅都市局都市整備部は金山のまちづくりを担当している部署でございます。金山駅の北側のまちをどうしていくかという構想もありますが、それを具体化していくということを今年度詰めているところではあります。私がこの席に着座しているというのは、やはり先ほど高北委員からお話がありましたようにリニア中央新幹線が名古屋にきまして、スーパーメガリージョンということでいわゆる一気に交流人口・交流圏が広がるよといった時に、名古屋では名古屋駅の開発がひと段落し、次は栄に開発が移っております。いわゆる都心部というと名古屋駅・栄駅ということになるのですが、では金山といったときに金山はやはり東方面からの玄関口ですし、周辺からの通勤客を受け入れるだけではなくて、この先はやはり海外とかさらに広いところの交流圏から人を受け入れるよといったところで、どのような役割を果たしていくかというものを考えていかなければいけないと思っております。

先ほど高北委員がおっしゃったように、金山のある市民会館・市民会館のある金山というところをやはりそれぞれの団体で考えていくのではなく、やはり連携しながら古くなったから建替えなければよといったこともあるかもしれませんが、これを機会に我々の局としては現段階ではお示しできないのですが、同時並行的に走りながら検討を進めているところであり、機会があればご紹介したいと思っております。本日のようなご意見を伺う中で、やはり金山のあるべき姿、名古屋における今後の金山といったところも、しっかり作り上げていきたいと思っております。

また、一つの方向性として、今年度は具体的な事業化を色々まとめていきたいと考えておりますので機会を伺いながらお示しできるものはお示ししつつ、総合的なことをご意見いただければと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

黒田座長

ありがとうございます。同じくオブザーバーということにはなるのですが、文化振興事業団事業部長の岡田さんも何かコメントがあれば。

岡田事業部長

名古屋市文化振興事業団事業部長の岡田でございます。日ごろは、文化事業を専門にやっておりますけど、過去はいろんな文化施設で勤務をしておりました。芸術創造センター、青少年文化センター、名古屋能楽堂、そして演劇練習館よといったところで勤務しておりました。今回新しい市民会館よということで、やはりこれはまちづくりそして賑わいづくり、なのだろうよという風に思っております。

過去のことを言いますと、劇場では今日は休館日です、点検日ですよと言ってガラガラよということもございましたけれども、これからはそうではなくて、いつ行っても何か賑わいがある、そのためには皆さんがおっしゃったように名フィルさんがあり、例えばテレビ局があり、いろん

な店舗があり、そういった総合的な形で賑わいづくりが出来ればいいのかなどという風に思っております。それからもう一つは、少し話がそれますが、新栄には芸術創造センターという 640 席の劇場がございます。この劇場もいずれ市民会館と同じような問題がすぐに起こってまいります。ですからどこかでそういったことも視野に入れながら、本当に大ホール・中ホールでいいのか、小ホールはどうかということも、少し検討の視野に入れていただければありがたいなという風には思います。以上です。

黒田座長

ありがとうございました。一応一通りご意見を頂戴したのですが、他の委員のご意見等を聞いたうえで、何か補足したり追加したりということがございましたら、どなたからでも結構ですのご意見をお願いしたいと思います。

林委員

よろしいですか。

黒田座長

どうぞ。

林委員

遠藤委員にお聞きしたいのですが、先ほど金山駅前の話がありました。今後リニアが完成して東京・名古屋間が 40 分圏内になりますよね。そうすると、観客による名古屋飛ばしが発生するのかなど。要するに（公演が観たければ）東京に行けばいいじゃないかという。

遠藤委員

そういう風にも考えられますけれども、逆に私たちは東京から名古屋へ（観客が）来るような気がしています。私たちが開催する公演ですと、東京は人口が多いからという理由で、東京は 20 公演開催して、名古屋では 3 公演、大阪は 5 公演というやり方は中々しないです。

東京は 2 公演、名古屋も 2 公演、大阪も 2 公演とします。すると、東京で見られなかった人が名古屋や大阪といった地方で見る。私はそういった動きに拍車がかかり、逆に、名古屋に皆さんが来ると思いますね。

林委員

逆に名古屋で見られなかった人が東京へ行くということも当然起きてきますよね。

遠藤委員

しかし、東京の方が段違いにチケットを取りづらいですから。

林委員

ありがとうございました。

黒田座長

ありがとうございます。私もいつも思うのですが、東京の方が色々な舞台やイベントがたくさんありますけど、昔3年くらい東京に住んでいた時もそうでしたが、やはりチケットが足りないのか、入手がまず難しく感じました。一方、名古屋では比較的早めに申込みば取りやすいかなという気がしております。他なにかよろしいでしょうか。

高北委員

議事説明資料の23ページに、最初から話題になっております利用目的に対する大会式典等の問題が少し出ています。申し込みを受け付ける際に、平等な考え方として、何をもって平等とするかというのが当然あるわけです。優先順位をつけることが不平等だとは思いません。私は愛知県美術館のギャラリーの委員もやっておりますが、かつては利用者を平等に扱っていましたが、そうではなくて、この施設が何の為に建てられたのか、何を目的としているのか、ということを考えてうえで、利用順位を3段階に分け、第1段階の人はこういう人たち、第2段階の人はこういう人たち、それでも空いているようだったら、第3段階の人たちが使うというやり方をやっております。

どうしたら第2段階になれるのか、という視点を市民の意識の中に存在させるという方法もあるのではないのでしょうか。これから文化施設を作っていく中で、大会式典については、空いていれば利用しても問題はないと思うが、大会式典での利用によって折角のミュージカルが利用できないとか、演劇での利用ができないというようなことは決して平等なことではない。他の施設でも実例があるので確認をお願いします。

黒田座長

その辺は事務局で今後検討していただくということによろしいですか。

事務局

昨年度からヒアリングをさせていただいておりますと、そういうご意見が非常に多く、特にプロモーターやマスメディアの方々から同様のご意見をいただいております。先ほど、林委員にご指摘いただきました「制度」という課題となりますので、今後整理をしていく必要があると考えております。

西川委員

林委員にお聞きしたいです。愛知県芸術劇場は芸術監督ができて、勅使川原さんが入られるということで、意義と経緯について教えていただきたいと思います。それがもしかしたら劇場づくりの参考になるかと思っております。

林委員

全国の劇場と繋がるのは勿論、海外の劇場ともつながっていく上で、重要なのはプレゼンスなんです。高北委員が発言された金山にある市民会館、市民会館のある金山と少し似ていると思います。「情報発信」は「広報を一生懸命やれ」という感じになりがちですけど、実はプレゼンスがそれ以上に重要です。芸術監督が芸術性の高いものを作っていき、それが松岡委員も発

言されていました「若い人に良い物を見ていただく」ということにも繋がって、相乗効果で愛知県の愛知県芸術劇場という風になっていけば良いかなと思っています。ぜひ、名古屋市民会館もそうになっていくと良いなと思います。

西川委員

ありがとうございます。私は三重テレビの伊勢神宮の番組のナビゲーターを10か月間やっており、おかげ横丁というのは、観光関係をやっている人にとって憧れの場所として大きく影響を与えているのですが、現在では1100万人以上の参拝者が毎年訪れるようになったのは、伊勢の人たちの話を聞いても、すごく自慢なことなのです。

最初のきっかけはやはりおかげ横丁であり、1件の店舗から始まり段々と店が増え、まちづくりが出来てきたということもありますし、伊勢神宮自体も明治時代にブランディングされた場所だということも分かってきました。天皇陛下が初めて行かれたのが伊勢神宮ということで色々な意図もあって、要するにプレゼンスということは、存在感をどういう風に出していくか、ということであり、ハードと同様に持つべきだと皆さんの意見を聞いて思った次第です。

黒田座長

ありがとうございます。ほかに何かございますか。

永井委員

今の存在感というのを引き継ぎまして。名古屋市民会館というと、それなりの責任感といますか、ステータスがあると思います。劇場が街の拠点になる際に大事なところは、質の高い公演は勿論ですが、日常的にその地域で暮らしている人たちが、常に行きたいような場所ということが重要です。大学で教員をやっていると、劇場の舞台芸術に人が関わるといった時に、ある意味きちんとした参加の仕方、例えばフロント業務であるとか、広報も舞台運営もそうですけれど、そういったことをきちんと教えると、学生もその両親も安心して舞台芸術に関わらせることができるといった点もあるのです。劇場が新たに舞台芸術に関わる人を育成し、普及していくような拠点になるのではないかと考えています。

劇場と大学のコラボも段々増えてきており、国の交付金の項目でも大学連携というのが重要視されている昨今であります。舞台芸術や劇場に関わると人生が豊かになるだけではなくて、学びにもなるといったような視点も大事です。大学とは違って勉強する所という訳ではありませんが、人生の学びになるということで色々な方が価値観を理解し、集まってくるような場所になるのではないかと考えておりますし、新しい文化の拠点になる要素が劇場にはあるのではないかと考えております。皆さんの話を伺って改めてそう考えております。

黒田座長

ありがとうございます。ほかに何かございますか。

林委員

普及啓発と人材育成をやっていこうと思うと、自主事業をどうするかという話になり、自主事業を誰がやるのか、劇場を誰が管理運営していくのかという問題があります。現状では指定

管理者が劇場運営を担っていると思いますので、これからの劇場がどうあるべきか、運営団体に何を求めて行くかということと併せて議論していくことになるのかなという気がします。

黒田座長

ありがとうございます。実は先週末に岡崎の芸術監督をしている人の話を聞く機会がありました。名古屋と若干距離はありますが、やはり地元で色々な音楽とか演劇をやる人材が、東京から地元に戻ってくる人の中から出てきて、そういう仕事を続けられるというか、指定管理の問題もありますが自主的な育成策というのを議論する場がありました。そういう視点も大事なかなという気がしています。

西川委員

もう一つ事例として、可児市で衛紀生氏という元々演劇で有名な演出家・評論家が10年ぐらい館長をやられている劇場があり、街を活性化してきたと思っています。東京にも顔が広い方ですから、最初の記者会見は東京のホテルで開き、文学座の定期公演が開催されるなど話題作りになったものです。地元の人にも質の高い芸術鑑賞の場であったり、練習であったりとか、街の居場所として「アーラ（可児市文化創造センター）」という場所が使われているということを実感しています。実際に衛氏とも話をさせていただきましたが、やはり人間というものがないで劇場を作るというのは危険ではないかというお話を聞いています。

文化振興事業団もお見えになる訳ですから「公平性」ので一点だけで説明するのではなく、現状をどこかで受け止めてもらって、名古屋における劇場のあり方はこうだということを説明していく必要があるのではないかと思います。劇場のハードを検討すると同時に運営する人間の選択の仕方やシステムについての議論も不可欠ではないかと思います。ハード・ソフト・ヒューマンという話に帰結しますけれども、やはりハードの話だけですと、利便性や予算的な制約の間を取って中途半端な施設ができるのが一番良くない傾向ですし、それを名古屋市がやってしまうと、規模から考えても日本という国家も大変な状態になると思いますので、自主性を持って主体性を持った劇場づくりというのが大事だと思いました。

黒田座長

ありがとうございます。ほかに何かございますか。

工藤委員

市民会館にとっては貸館の重要性もあるといます。貸館だけじゃないという中で芸術監督を置いて、その上で貸館とするのは中途半端なものになる危険性もあります。現状の名古屋の劇場不足状況からいえば、貸館は避けられないと思います。貸館をどうするかについて、例えば（利用目的を）文化事業に限定するののかといった点も同時に議論して、貸館としての市民会館だけでなく、劇場としてどうしていくのかの議論も必要だと思います。例えば金山のまちの再開発と一緒にあって、その周辺の経済的効果も含めてどんな議論ができるのか。

名古屋の場合、芸術創造センターは創造発信の拠点であり、青少年文化センターは若い人たちの文化の拠点となっています。それでは市民会館はどのような文化発信をしていくのかということも議論し、名古屋市民会館だからこそこできる文化発信とは何なのか、それと大ホール、

中ホール、そしてもう1個と発言がある中で、愛知県芸術劇場と名古屋市民会館の役割分担も踏まえながら、今までにないようなことができるのではないかと考えています。

黒田座長

ありがとうございます。ほかに何かございますか。

高北委員

金山の1日当たりの乗降客が43万人。これは人数が増えているということですが市民会館が開業した当時はどれくらいの数字であったかわかりますか。(事務局：把握していません)開業当時は大した人数ではなかったのが、総合駅になって乗り入れしやすくなり、私も総合駅になる前の名鉄がとても不便な所に駅があった頃を覚えています。金山が便利になった中で、乗降客数が43.7万人と出ていますが、43.7万人のうち、ほとんど誰も市民会館を見ずに、地下通路を通過して来場している。資料にある市民会館は天津通からの写真でして、金山から写した写真ではないですよ。天津通からの写真は中々立派ですが天津通側から一体どれだけの人が見ているのかという問題がある。市民会館にいた我々でさえも天津通側から見える立派な姿を拝見せずに帰っていくような設計になっています。つまり、ランドマークになっていないのです。先ほど申し上げた通り、舞台上演しない、劇場に行ってみたり、観賞したりもしない、ただ私の町の中には市民会館が存在しているという、そういう視点が大事なわけです。金山総合ビルというものが南側に建っていて完全に遮断しているのですが、それも含めて将来のまちづくりの景観設計にも加わっていければ素晴らしいと思います。

黒田座長

ありがとうございます。さきほどリニアで東京から観客が来るからという話がありましたが、名駅までリニアで来て、金山ならJRか名鉄ですぐに来られますのでアクセス面で非常に便利なところですね。県外から訪れる人からすると、栄よりも分かりやすいのではないのでしょうか。

ランドマークとしての機能、金山の再開発構想の資料にもありますが、その中で考えていければと思います。他に何かございますか。

林委員

先ほど自主事業と貸館の両立の難しさということが指摘されましたが、自主事業は必ずしも鑑賞事業だけではなくて、普及啓発であったり、人材養成であったりもするのでそこは上手にやれると思います。ただし、普及啓発や人材育成は、収入が見込めないで持続しないというところが難しいと思います。議事説明資料の27ページにはユーザーにとってドキッとすることだと思えますけど、移転か現地建て替えにすると利用料金の値上げで利用料収入が期待できるのかという議論もあると思えますけど、もし実際に収入を増やすことができれば、名古屋市の支出が減って良かったねというのではなくて、自主事業とうまく循環させて、貸館で稼いだ収入で普及啓発や人材養成をやるという資本の循環をつくるのが良いと思います。

文化振興事業団が普及啓発や人材育成をやっておりますので、名古屋市と市民会館との間でお金が動く、名古屋市と事業団の間でお金が動くということではなくて、3つでお金をうまく循環させるようなシステムが作れると良いのではと思いました。

黒田座長

ありがとうございました。

遠藤委員

今話を聞いていまして貸館でいつも利用している立場で、どちらかというとも芸術性と程遠い真逆な大衆性をメインでやっているものですから、普段の皆さんの生活の中で喜ばれたりするものを多く扱っておりますので、そういった発想には至らなかったのですが、今お話を聞いていて、市民会館がランドマークになった時に収入源をどのように作るかという、例えば 50 階建てのビルの上に作るとか、その土地代で収入を得る。また、利用料金を変動制にするとか、例えば繁忙期や土日は 3 倍にする、1.5 倍にするとか、逆に閑散期には安くなるんですかという色々なことが考えられる。

利用料収入が色々なことに回れば、あとは施設の改修が必要になってくるので、そういった費用も税金で全て賄うのではなく施設収入から賄う。そういったことを見据えた料金形態にしていけないと、古くなってきて改修が必要な時に、財源はどこから捻出するのかとなった際は市から予算をもらわなければいけない。改修が出来ないじゃなくて、だんだん古くなったら改修費を貯めていけるような仕組みにしてほしいと思いました。

黒田座長

ありがとうございます。

事務局

財源の問題につきましては、具体的に計画が進んでいく中で決まっていくものだと思っております。また利用料金の設定につきましては、将来的に検討すべき要素だと思っておりますがバランスを見ながらの難しい課題なのかなと思っております。

他都市では財源の捻出という点では、先日豊島区の再開発を見させてもらいましたが新しい手法で財源を捻出されており、我々も今後いろいろな研究を重ねながら皆様と一緒に市民会館について議論していきたいと思っております。

黒田座長

ありがとうございます。他に何かございますか。

山本委員

うちも日本全国で指定管理の業務をやっております、その中で施設の自主事業で地元の方と一緒に小芝居を作ったりしています。日本全国 47 都道府県に芸人や社員が住んでまして、色々な文化とかを打ち出していますが、私も中国地方に住んでいた時があり、島根県と広島県の間くらいのところで「かぐら」というのがあって、地元の方々が自主的に集まって神話をモチーフにした踊りとか芝居をしていて、広島に「かぐらホール」という民間のホールがあるんですが、毎日「かぐら」が上映されているとか島根県のホテルに行けば見られたりします。

また、岐阜県の東の方に行けば「地歌舞伎」という文化があって、そこで地元の方々が歌舞伎を年一回開催したりだとか、ゴルフ場の方が中心になってやっている小屋もあつたりしてい

ます。市民会館に新しい（3つ目の）劇場ができるのであれば、お祭りのこと、地元の方々が集まって何かできる拠点があれば人材育成にも役立つと思います。

名古屋に来て驚いたのは、信長・秀吉・家康を三英傑として祀っていることにびっくりしました。私は兵庫県出身ですけど、大阪に近いので秀吉さん、太閤さん、信長さんはその主人の人やからと思うのですが、家康は「につくき家康」なんですよ。静岡に住んでいたこともありその時はお膝元が家康さんだったので「秀吉小っこい奴」みたいな感じでしたが、名古屋では三英傑を祀っている。三人がヒーローだという凄く良いところだなと思っています。そういったことも含めて名古屋の文化って、私はすごく色々なものを持っているなと思うので、地元からでも文化の発祥を担うようなところがあればいいかなと、ここに来るまではたくさん見させてもらった嬉しいなと思っていたんですけど、そういう新しいものを作るのであれば市民の方々一番使いやすいものが作ればいいのかと思います。

黒田座長

ありがとうございます。他に何か。

西川委員

黒田先生にお聞きしたいのですが、財源をどうするのかということですが、そうは言っても貸館だけをやっては財政的には黒字にならないというのが根本的な問題として施設の維持管理では、慢性的にお金が足りない状況の中で劇場運営というビジネスは非常に難しいと思っています。世界的に見て民間と公共の両方でお金が出し合って運営している成功事例みたいなものは無いのかお伺いしたいと思ったのですが。

黒田座長

1つは事務局がこの間東京で視察された（豊島区の）事例です。昔の自治体は儲けてはいけないという意識が強かったのですが、最近では東京を中心に開発利益といいます、今回ですと金山の再開発で地価や不動産価格が上昇するので、それをうまく劇場整備の財源に取り込むものです。御園座の再開館はマンション開発とセットで整備出来たようです。永続的な財源の捻出はやはり難しいのですが、今後は公共施設であっても、先ほどネーミングライツでご指摘をいただきましたが、それ以外で長期的に改修の財源を賄えるプラン作りは不可能ではないと思います。

特に金山は立地的には名古屋の中でも最高の場所なので、ますます金山の人気が出るという、ただの乗り換え地ではなくて、再整備による魅力向上と結びつけていければ可能ではないかと思っています。

西川委員

懇談会の委員に劇場関係者やまちづくりの関係者が多いということや、（事務局では）舞台の裏方さんにもヒアリングしているということですので、かなり趣向が効いているなと思ったのですが、今日の色々な話し合いを聞いていますと、民間（の興行主）も入っていることですし、そういった民間の企業経営に携わる方々の意見を聞いておかないとお金の問題は重要な検討事項でありますので、そういった委員にも入っていただきたいと思いました。

黒田座長

ありがとうございます。他はよろしいですか。それでは予定していた時刻となりましたので本日の懇談会は以上とさせていただきます。